

千代田まちづくり サポート通信

2024 JULY ISSUE No.42

2024
7

JULY



第23回 千代田まちづくりサポート 活動成果発表会

～新たな挑戦で住み良い魅力的なまちに～



〔目次〕

- P1～2 事業・活動成果発表会の概要
- P3～14 助成グループ活動成果発表
- P15 千代田まちづくりサポート大賞
- P16～18 審査会委員講評
- P19～20 写真集
- P21～22 活動 MAP

支援しています。 まちづくり活動を

Chiyo da No Machisapo



千代田まちづくりサポートは（まちサポ）は、
将来にわたって千代田区を元気ある、住みよい魅力的なまちにする
自主的で主体的なまちづくり活動を行っているグループに対して、
その活動経費の一部を助成する事業です。

まちづくり活動とは、
「地域に元気をもたらし、コミュニティの活性化に貢献する活動」、
「現在、将来にわたって住みよい魅力的な都市環境づくりに貢献する活動」
のことです。

令和6年5月26日（日）に開催したまちサポ活動成果発表会では、
助成された10グループと第19回普請部門、
第20回普請部門で助成された2グループが、
この1年間のまちづくり活動の成果を発表しました。

まちサポ応援
キャラクター
「ちよすけ」



本誌では、その活動成果発表会の様子をお届けします。
皆さんもまちづくり活動に興味を持っていただけると幸いです。

なお、第23回助成グループの公開審査会の様子は、
「サポート通信No. 41」に掲載されています。
財団ウェブサイトでも閲覧できますので、
是非、ご覧ください。



第23回千代田まちづくりサポーター活動成果発表会



- 【開催日】 令和 6 年 5 月 26 日(日) 13 時～16 時 30 分
【会 場】 ちよだプラットフォームスクエア 5 階(神田錦町 3 丁目 21 番地)
【内 容】 (1) まちづくり活動の成果発表「はじめて部門 3 グループ」、「一般部門 7 グループ」
(2) 活動の年度報告「普請部門 2 グループ」

Program

- 13:00 開会
理事長あいさつ、審査会委員紹介、プログラム説明
- 13:20 活動成果発表
5 グループ(各グループ 発表時間 5 分・質疑応答 5 分)
- 14:10 <休憩>
- 14:20 活動成果発表
5 グループ(各グループ 発表時間 5 分・質疑応答 5 分)
- 15:10 <休憩>
- 15:20 年度報告(普請部門)
2 グループ(各グループ 発表時間 5 分・質疑応答 5 分)
- 15:40 <休憩>
- 15:50 講評(審査会委員)、全体講評(審査会会長)
- 16:00 サポート大賞発表・受賞者記念撮影
- 16:10 事務連絡等
- 16:20 閉会・記念撮影

審査会委員

- 会 長 ^{ごとう} 後藤 ^{ちかこ} 智香子
東京都市大学 環境学部 環境創生学科 准教授
- 副会長 ^{みとも} 三友 ^{なな} 奈々
日本大学 理工学部 土木工学科 助教
- 委 員 ^{かきうち} 柿内 ^{けんすけ} 健介
神田地域代表
- 委 員 ^{おの} 小野寺 ^{たけし} 健志
麹町地域代表
- 委 員 ^{たくま} 田熊 ^{てつや} 哲也
興産信用金庫 地域支援部
お客様支援課 地域支援担当 課長
- 委 員 ^{せんが} 千賀 ^{こう} 行
千代田区 道路公園課 課長
- 委 員 ^{ほしな} 保科 ^{しょうご} 彰吾
公益財団法人 まちみらい千代田 理事長

助成グループ一覧(発表順)

部門	回数	助成グループ名	ページ
一 般	3	01 番町っこ倶楽部	3
一 般	2	02 神田藍の会	4
一 般	2	03 あるまっぶ CHIYODA	5
一 般	1	04 まちづくり・地域政策研究会	6
一 般	1	05 tea plant club	7
一 般	1	06 一般社団法人ちよママ	8
一 般	1	07 エンジョーイ 歌ンターレ CHIYODA	9
はじめて	—	08 アマルフィファーム	10
はじめて	—	09 すなっくちよだ	11
はじめて	—	10 ちよダン	12
普 請	—	11 優美堂再生プロジェクト実行委員会(令和2年度第20回助成)	13
	—	12 「神田珈琲園」再生プロジェクト(令和元年度第19回助成)	14

01

番町っこ倶楽部

馬と遊び、馬に学ぶ@番町の森



【代表者】佐藤 洋平 【主な活動地域（場所）】番町麴町地域

活動概要

番町っこ倶楽部は、「愛を以って、共に育む」をモットーに番町地域を中心に活動するコミュニティ・サークルです。

「番町の庭」ができたことをキッカケに、番町に馬を連れて地域の子供達との触れ合い体験イベントをスタートしました。イベント開催を通じて、「番町」という町の魅力や文化・歴史を多くの皆さまと共有し、コミュニティ醸成のため、活動を行っています。

発表概要

3年間本当にありがとうございました。

「愛を以って、共に育む」ということをテーマに番町麴町地域で活動している団体です。メインとなる馬のイベントですが、実は今年、8回目にして、はじめて雨が降りました。テントでの開催でしたが、スタッフも8回経験しているので、臨機応変に対応することができました。

雨だったので、参加者が何人来るか若干不安でしたが、事前予約をいただいた方のうち、1組を除いてすべてのご家族に来ていただき、キャンセル待ちで追加した方も含めて、無事満員となりました。

また、番町の畑では、馬にあげる人参を作っていました。去年は非常に猛暑で作物が全然育たず、馬用の人参を購入することになりました。

7月には、子どもたちと植えたトウモロコシを収穫して、番町の森で実際に焼いたり、茹でたりして食べました。3年目の今期で卒業となるので、来年度報告する機会がなくて残念ですが、先々週、トウモロコシを植えて、みんなで食べようと計画しています。

畑ですが、面白い取り組みとして、本物のこんにゃくを作ろうと、私の知人の群馬の農家さんに来ていただき、こんにゃく芋からこんにゃくを作りました。ほとんどのこんにゃくは、群馬で作られているらしく、tea plant clubのメイドイン千代田の紅茶の話ではないですが、千代田産のこんにゃくは非常に珍しいそうで、農家さんも是非食べたいと、みんなで食べました。

今までは点のイベントを中心に活動してきましたが、審査会委員の皆さんもお話されていたとおり、コミュニティの醸成は一朝一夕で出来ることではないと気づき、点で動いてきたものを線にしていこうと、昨年の10月頃から「番町麴町タウンミーティング」というイベントを開催しています。

「番町麴町タウンミーティング実行委員会」には、複数の団体に入っています。私がMCを務めさせていただきタウンミーティングを通じて、地域の潜在的な声を聞き取ることができたらと思っています。

この取り組みは、ちょっと他とは違うかなと思うところが、ラジオ形式で、お便りをもらって、それをみんなで共有するというように開催しています。

やはり手を挙げて、意見や思ったことをその場で話してもらおうと思っても、なかなか皆さん出てこないで、テーマを絞って、チラシにつけたQRコードから申込フォームに意見を出していただいています。

他の助成グループのなかでも、あるまっぶCHIYODAの山森さんやtea plant clubの加藤さんにも参加していただきました。

5分では話さないこともあります。いろいろな方との横のつながりも大事に、他のイベントに参加したり、来ていただきました。今期で3年目なので、もうちょっと横のつながりをしっかりやろうと、そういった活動もして1年を無事に過ごせました。

今年で最終年度ですが、この助成の力があつたお陰様で、幅が広がりましたので、その間に成長した分、これからも地域のコミュニティに貢献できるように活動していきたいと思っています。



Comment



委員 来年度以降、馬の活動は継続されますか。

その場合、資金面はどのようにしていかれますか。

また、タウンミーティングについては、会話の場を作られたことがとても素晴らしく、大変興味深いと思ってお聞きしたのですが、何人ぐらい参加されましたか。

助成グループ 今後も引き続き開催していきます。馬のイベントについては、すでに日程が決まっています。令和6年11月17日(日)に開催予定です。

資金については、この3年間は助成金がありましたが、助成を受ける前のように皆さんに協賛いただくという形で、やっていきたいと考えています。

タウンミーティングについては、10月～2月までの間に5回開催し、延べ50～60名ほどの方にご参加いただきました。

委員 タウンミーティングは、どのような方たちが参加されましたか。

また、そのなかで話したことをどこにフィードバックし、どのように活かしていくのか教えてください。

助成グループ 千代田区の後援をいただき、区の広報掲示板にポスター掲示したことで、番町麴町地区を中心に、住民だけでなく企業の方にも来ていただきました。

テーマについては、これから種を探していこうということで、皆さんが思っている番町麴町地域を教えてくださいというのを1つと、千代田区の課題である子どもの遊び場の話、あとは防災ですとか、緑の栽培の話では、tea plant clubの加藤さんの話を共有させていただきました。

フィードバック先ですが、一度、千代田区のまちづくり担当部長の加島部長に来ていただき、まちづくりの勉強会を開催しました。千代田区のまちづくりに関して意見のある方が多く、その回はかなり盛会になりました。そのほか、皆さんからいただいたご意見を千代田区の方に聞いていただきました。

02

神田藍の会

神田を藍(愛)でいっぱい 2023
～ Ai Love KandA ～

【代表者】伊藤 純一 【主な活動地域（場所）】神田地域

活動概要

神田藍の会は、藍を育てることで心身のストレスの軽減と、子どもから高齢者までが日常やイベントで顔をあわせるきっかけとなり、ともに学び、育てる楽しみとなり、藍が人と人、人と街、人と歴史・文化を結び合わせると考えています。

また、栽培を通して教育・高齢者施設等でも長期的な視点で交流を行うこと。藍が企業の方同士も結び合わせ、課題軽減につながるサポートをすると同時に、会として自律するためのしくみを構築し、多様な方が主体的にかかわる方向性を目指していきます。

発表概要

2年目の活動が終了しました。

まちみらい千代田さん、審査会委員の皆さま、それから、この活動でお知り合いになった皆さまには、いろいろとご支援いただいたほか、暖かく見守っていただきました。どうもありがとうございました。

神田紺屋町では、江戸時代、日本全国から届けられた藍染の原料で染めた綿布を、江戸の方々が普段使っている衣類や日用品に縫製・加工することで、江戸中のまちの暮らしを支えてきました。

そんなところから、神田で藍を育てて、みんなで楽しみたいという趣旨で神田藍の会を作りました。

今日も藍を持ってきていますが、私たちの活動は、藍を育てるだけでなく、それをきっかけに地域の方との交流やコミュニケーションがとれるような場を作ることを目的としています。そのため、3月に種まきをする、みんなが「よし、シーズン始まったぞ」と結束力が高まって、今年も大きく育てようという声がたくさん聞かれます。

興産信用金庫本店様の屋上での手入れのほか、神田明神様での植替えなどを皆さんと行いました。

つぎに、興産信用金庫神保町支店様では、社員の皆さんと一緒に生葉染めを行いました。

今期、2年目ですので、昨年は生葉染めで地域の方と交流したのですが、そこから少し次のステップへ進もうということで、今年は乾燥葉での染めを開始し、活動の幅を広げています。

そのほか、地域の方からお声掛けいただき、神田キリスト協会様や出世不動通りでの「おとな縁日」、それから縁起市での種の配布など、さまざまな形で皆さんと一緒にお話をする機会をたくさんいただきました。

また、はじめて乾燥葉を皆さんで染めたのですが、それを吹き流しにし、5月に開催している「和泉橋鯉のぼり祭り」で一緒にあげていただきました。

これからのことを考えると、神田での藍の栽培だけでなく、本場での藍染とはどんなものなのかを学ぶことも必要だということで、徳島の藍農家さんや染色家の方との交流も進めてきました。

神田明神コンサートでは、ピアニストの方の結婚祝いにシルクのスカーフを製作し、送らせていただきました。

また、九段生涯学習館で地域の親子の皆さんと一緒に染め体験をしたり、学生の皆さんと交流をしたりしています。

3月には、かがやきプラザの屋上で藍の栽培をスタートし、今、みんなで育てた苗の植替えをしているところです。

これからの継続性については、メンバーと一緒に相談しているところですが、例えば、神田豊島屋さんと新商品のお酒（みりん）のお祝い用オリジナルコースターを製作するなど、新しい取り組みをさせていただいております。

すべてを藍染や藍の栽培で終わらせるのではなく、どうやって継続していくのか、植物なので長いスパンがかかるのですが、こうしよう最初から決めるのではなく、毎月定例会で検討しています。この会は、メンバー全員が、自分たちでこれを継続していくにはどうしたらよいかということを発言することができる場として運用しています。

今後については、これから1年かけて話し合っていくという機運が盛り上がってきているところです。



Comment



委員 夏の納涼祭りでの活動を拝見して、皆さん地域に溶け込んでいらっしゃるなあと実感しています。

例えばですが、幼稚園・小学校と連携して、道路脇にあるスペースや学校内で子どもたちと一緒に藍を育てるのも、活動の幅が広がると思うのですが、今後その予定や計画があれば、教えてください。

助成グループ 出世不動通り「おとな縁日」でのたたき染め体験イベントでは、近隣の保育園も参加され、皆さんで体験をしていただきました。学校やPTAの方とも連携を取っていきたいと思っているので、是非、ご紹介していただきたいです。

また、千代田区全域が対象となるのですが、九段生涯学習館で開催した小中学生親子対象藍染体験会では、チラシを小学校に配布していただきました。

委員 課題が活動資金不足や助成金不足ということでしたが、どのまちづくり活動団体もそこがネックになっていたり、人の問題もあったりするので、報告書に書いてあるような企業連携や寄付等でそこが解決されるといいと思いました。

今後も引き続き、いろいろ教えてください。

助成グループ ありがとうございました。

あるまっぷ CHIYODA

すれ違い際に「こんにちは」と
挨拶ができるまちへ

【代表者】山森 彩香 【主な活動地域（場所）】千代田区全域

活動概要

千代田区の地域情報を発信する冊子の発行を通して地域コミュニティの絆を深め、訪れる人々にも千代田区の魅力を伝えることを目的として活動しています。冊子でご紹介する内容は、千代田区内にある企業や店舗・団体の“人”に着目して取材を行うことを大切に、人柄や考え方を伝えられる内容にすることを心掛けています。また、冊子の発行を通して人と人とを有機的につなげ、新しい活動を生み出すことも行っています。

発表概要

今回発行した2冊の冊子について、その内容をお話させていただきます。

Vol.19では、平河町にある発達障害などの障害を持ったお子さんが学校の後に通うデイサービスを運営されている千代田区児童発達支援・放課後等デイサービス「びかいち」の代表理事の中田さんに取材させていただきました。

こうした取材を通して、いろいろと地域の課題のほか、障害を持ったお子さんとその親御さんの困っていることや悩みを聞く機会がありました。また、障害を持っていて、なかなか学校に通えないという子どもたちのために、オンライン上で交流できるイベントを開催しました。

地域のお母さんたちのお声掛けなどで、10名のお子さんに参加していただきました。皆さんこういった仮想空間を使い慣れていて、現代っぽい繋がり方として、こういうのもあるかなと実感しています。

特に興味深かったのが、オンラインの方が本音を話せるという男の子がいたり、教室のような空間で出席を取ったり、席に座ってくださいと先生の真似をしたり、学校ごっこをする子がいたりしました。こういった場所を作ることはお金をかけずにできるので、継続して開催していきたいと考えています。

Vol.20では、千代田区を中心に子どものサッカークラブの運営をしているFC千代田の中村さんに取材させていただきました。

この取材をきっかけに、サッカーや勉強に効果がある目の動体視力を鍛えるビジョントレーニング（練習器具）を知ってもらうとともに、子どもたちにも使ってもらいたいということで、器具を開発している千代田区内の企業を、FC千代田への協賛に繋げることができました。

冊子の製作を通じて、冊子自体が地域で活動していくうえでの名刺代わりになり、この活動がきっかけで繋がった方たちと、どんなことができるのか、それをどう生み出していくのか、そこが2年目の活動で強く感じたところでもあります。

大妻女子大学「番九クリスマスマルシェ」では、事務局として一緒にお手伝いさせていただいたり、九段生涯学習館の「ちよだ生涯学習カレッジ（ちよカレ）」のフィールドワークや入学生募集の際の座談会に登壇させていただいたり、少しずつあるまっぷCHIYODAの活動を知っていただけるようになったと思っています。



Comment



委員 スケジュールどおりではなかったということですが、2冊の質の高い冊子を完成されたと思って発表を聞いていました。

活動資金が余ってしまったことと、取材先やメンバー同士のスケジュール管理が難しいことが課題となっていますが、スケジュール管理がうまくいず、発行できなくてお金が余ったということでしょうか。

取材先が見つからなかった、スタッフ不足など、具体的な課題を教えてください。

助成グループ 具体的には、冊子のなかに学生ページというのがありまして、学生のテスト期間と重なったり、取材には行けたけれど、文章にできていないということがあり、結局自分書き起こしをしていました。

そういった部分もあって、今後は冊子ではなく、オンラインでもよいと感じて、その辺を検討中です。

委員 今までの課題も解決できそうなので、また試行錯誤されながら進めていただければと思います。

昨年度までの「あるまっぷ」というフリーペーパーでは、主に飲食店を中心に取材していた印象がありますが、今回は、各種団体を中心に取材されています。

目的を変更した大きな理由を教えてください。

助成グループ 新型コロナの関係もあったので、今までは飲食店を中心に何か広報や取材を通じてできることはないかと活動をしていましたが、活動を続けていくなかで、自分自身が子どもや福祉に興味があると感じました。その関係で、自然とそういった方向になっていきました。

歯科医師さんとコラボして、「支援が必要な子どもでも“作れる”“食べられる”カレー」というコンセプトのカレーを開発しまして、それを千代田区内の企業の方にお弁当として購入してもらうという話が進んでいます。実際に来週お披露目で、まずは、1つの企業さんからですが、少しずつ広めていけたらと思っています。

委員 活動の目的にすれ違いざまに「こんにちは」と挨拶できるまちへとあるので、今まで飲食店に焦点を当てていたところから、各種団体の方にシフトされたのも、よく気づかれたなあと思います。まちにはいろいろな方がいて、いろいろなコミュニティがあります。福祉もそうですし、飲食店もそうです。そんなところを繋げていけたら、さらに膨らみがでると思いますので、是非、頑張って継続してほしいと思います。

助成グループ ありがとうございます。

04

まちづくり・地域政策研究会

麴町を“麴の町”にするプロジェクト

〔代表者〕井澤 和貴 〔主な活動地域（場所）〕麴町地域



活動概要

これまで歴史や地域の魅力を再発見するようなプロジェクトを実施してきましたが、活動の次のステップとして、法政大学に近い「麴町」のエリアを活性化したいと考えています。

諸説ありますが、「麴町」の地名はその名の通り大豆や穀物を発酵させる「麴」の店が多くあったことに由来しており、この特徴的な「地名」広く知っていただき、地域活性化に貢献できる活動を行っていきます。

発表概要

私たちの団体は、法政大学大学院でまちづくりを専攻したメンバーで構成されています。地域の魅力の再発見につながるようなプロジェクトや地域コミュニティの構築に関する取り組みをおこなってきました。

諸説ありますが、麴町の地名はその名の通り麴の店があったことに由来しているため、この特徴的な地名を活かしたコミュニティ活動として、「麴町を“麴の町”にするプロジェクト」をテーマに活動してきました。しかし、麴に関して専門的に勉強したことがないため、大学院で知り合った、静岡県静岡市で空き家を活用した「麴カフェ 宙（そら）」を運営し、麴のスイーツなどを販売している柴田由見さんの協力を受け、「醤油麴作り」ワークショップを実施しました。

ワークショップ開催にあたり、1～2か月ごとに1回程度、対面またはオンラインでのミーティングを行いました。実際に現地を見ないとわからないということもあり、視察ということで、研究会のメンバー3名で静岡県静岡市へ行き、柴田さんに会ってきました。

そのなかで、麴そのものについての勉強もしましたが、まちづくりの考え方についても話を聞きました。

柴田さんにはまちづくりに関わる知り合いが多く、静岡中心の事例となりますが、まちづくりに関する柴田さんの考えやそのまちづくりに関わる人の話を聞くことで、麴をはじめ、コミュニティについても理解を深めていきました。

ワークショップについては、令和6年1月20日(土)に一番町集会所で開催しました。

募集については、広報誌で広報を行い、その結果4名が参加されました。

ワークショップのプログラムは、「麴町について」と交流会、そして醤油麴作りです。

麴町の成り立ちに参加された地域の方と一緒に勉強しました。私たちのメンバーには、千代田区在住がいないため、千代田区の魅力を物件だけでは満足に勉強できないと考え、実際に住んでいる方との交流を行うことで、千代田区の課題や魅力というのを地域の方の視点から話を聞いたり、把握することに努めました。

醤油麴自体は、醤油麴の菌を瓶に詰めて混ぜるといった非常に単純な作業ではあるのですが、なかなか麴そのものに触れる機会もないため、麴に触れたり、その活用方法等について、学習しました。

ワークショップ終了後のアンケートでは、ほとんどの方が3つのプログラムすべてについて、「とても良かった」または「よかった」というふうに書いていただきました。また、講師の先生にも感想を聞いたところ、「参加者の方の地域への思いを感じた」「千代田区が好きだ」という人が多かったと感じたそうです。

今回のワークショップでの課題として、講師の先生に頼る部分が多いプログラムが多かったと思っています。自分たちでも麴について、学ばなければならないにもかかわらず、ほとんどのプログラムを先生任せにしてしまったことがありました。また、一回限りのイベントではなく、継続的なプロジェクトとして立ち上げていかなければ、存続することが難しいと感じました。

Comment



委員 麴の楽しそうなワークショップが開催できてよかったと思います。

一回限りでなく継続的なプロジェクトも必要と認識されているようですが、来年度以降も継続的にやっていけそうでしょうか。また、運営としても研究会のメンバーが増えないということも課題としてありましたが、例えば、ワークショップに参加された4人から仲間になってくれそうな人はいましたか。

助成グループ 続けるということに関して、ワークショップ形式ではほぼ一発勝負になってしまうため、他のことにしようかと。詳細は言えないのですが、具体的には醤油の販売などを考えています。別に販売といってもこれで儲けようということではないですが、そんなことを考えています。

販売にするとまちづくりサポート助成の趣旨とは少し離れてしまうので、助成金については一旦お休みになるかなと考えています。

運営については、メンバー内でも家庭の事情や転職など、だいぶ減ってしまっている状態で、なかなか新しい人を増やすのが難しい状態です。脱退とは言っていないのですが、メンバーの中でも活動できない者もいるため、続けるのは難しい状態で、考え中です。

委員 働き盛りの30代や40代の仕事や家庭が忙しいなかでのまちづくりというのは、色々難しさや悩みもあると思いますし、そこはとても共感できる場所です。だからこそ、地域の今回ワークショップに参加された方から次の担い手が出てくると思ったので、今後、そんな可能性も探っていただけたらと思います。

メンバーを集めるのに非常にご苦労されているということですが、今後、どういった方を集めていきたいと考えていますか。大学院を専攻されたメンバー限定となるのでしょうか。

助成グループ メンバーをどうするのかというのは非常に考えているところで、まちづくりというのはいろいろな考えの方を入れることが大事だと思うのですが、大学院生だと先生も同じで話も通じるので、やりやすさはあります。メンバーの拡大については、現在、考え中です。

委員 計画の相違点として、ワークショップのほかに冊子を計画されていましたが、なぜワークショップのみとなったのでしょうか。

助成グループ 冊子の発行については、麴というのが奥深く、勉強していくうちに広がっていき、作成にあたっては不確かな情報は掲載できないということで、ワークショップのみとなりました。

一般社団法人ちよママ

SNS を活用した千代田区の子育て
情報発信および
子育て世帯のネットワークづくり

【代表者】勝連 万智 【主な活動地域（場所）】千代田区全域

活動概要

Instagram・Facebook・LINEBusiness等のSNSアカウントを利用した地域情報の一元的な発信により、子育て世帯にとって有益な情報を、必要な方によりタイムリーに届くよう取り組みを行っています。より包括的かつタイムリーに、有益な情報を把握し発信することで、より精度の高い情報を子育て世帯に届けます。

フォロワーの推移

	令和5年 7月	令和6年 3月	差
Instagram	805	1,060	255
Facebook	552	600	48
LINE Business	364	581	217

発表概要

ちよママでは、企業との協働事業や行政とのイベント事業を主な活動としていますが、まちサポでは、子育ての情報を配信する事業に取り組んでまいりました。

子育て情報が分散していて、タイムリーに適切な人に情報が届きづらいという課題感があったこと、新しく入ってくる子育て世代やファミリー層に対して、子育て情報や地域の情報がより届くような活動をしたいということが根底にあって始めた事業です。目的としては、誰もが平等に情報を得られる機会を創出するため、主にInstagram、Facebook、LINEを使って、区内のイベント情報を発信しています。それぞれでアップしている情報は分かれていますのですが、まず、ちよママのホームページについては、行政のホームページをリンクさせることで、行政の情報が拾えるようにしています。また、InstagramやFacebookでは、イベント情報のほか、遊べる場所や飲食店などを紹介しています。LINEでは、週末に家族で出かけられるようなイベントについて、千代田区内を中心に、近隣区のものも集めて、毎週金曜日に配信しています。

Instagramですが、現在、1,125 フォロワーで、全体で300人ほど増加しています。千代田区全体の0～9歳までの子育て世帯というのが、大体4,000世帯ぐらいになりますので、約1/4ぐらいを網羅する数のフォロワー数となったことは、収穫であったと思います。令和5年4月スタート時点では、300フォロワー程度でしたので、活動開始～現在までに約700～800フォロワーほど増えたと思います。

それに連動するような形にはなりますが、他のSNSのフォロワーも増加しました。LINEについては、現在は600名ほどが登録されています。友だち追加だけだと、700名ほど集まりました。

数字だけで見ると、どのくらいのインパクトがあるのかと思われるかもしれませんが、私たちの主なターゲットは、千代田区もしくは千代田区近隣にお住いのファミリー層のみとしてセグメントを狭く活動しているので、4,000世帯のうち、約1/4のフォロワー数はいい結果になったと思います。

2回のSNS講習会では、約30名の方にご参加いただき、それぞれの配信に特化した講座を開催しました。アンケートも評価が高く、引き続き開催していきたいと考えています。

課題点としては、思いのほかイベントに工数がとられてしまうということがありました。また、運営ボランティア約7名で全エリアを網羅しているところですが、Instagramで募集をかけ、一人ずつ面談して参加していただいているのですが、それぞれのやる気や気持ちで、投稿頻度が異なり、質が違うこともあって、その辺に左右されてしまうことがありました。あとは、投稿内容がお住まいの地域の情報に偏ってしまうこともあり、投稿情報の統一化や質の均一化などをどう図っていけばよいかというところを考えているところです。

今後目指していきたいこととしては、

- ・配信側の出会いの場やリアルなコミュニケーションをとる会の実施
- ・講座の講師の層を厚くしたい
- ・Instagramのツールをもう少しフル活用したライブ配信を増やしていきたい
- ・今後の収益化にもつながるLINEBusinessでの地元企業のクーポンの配信
- ・定期的な配信スタッフの募集

Comment



委員 フォロワーを増やす具体的な工夫があれば、教えていただきたいです。また、今後の展望としてリアルな場との連携というところが素敵だと思ったのですが、具体的なアイデアがあれば教えてください。

助成グループ フォロワーを増やすには、投稿の頻度と質になりますが、地元の方しかリーチできないものをどうやって見つけてくるかが一番直結すると思っています。さらに、Instagramだけでは、機会損失しますので、それ以外にLINEと一緒に連携させ、毎週金曜日にプッシュ型で情報が届くというような連携をすることで、さらに強固なフォロワーになると思っているところです。

リアルな場との連携については、課題にもありますが、投稿者の思いや熱量の差で情報や投稿頻度が偏るところは、1年活動してすごく感じたところです。投稿者のモチベーションの統一やモチベーションを高めるような配信側のリアルコミュニティのようなものをこちら側できちんと管理していかなければならないと思いました。

また、SNSに特化した講座を2回実施し、集客も良く、参加者の評価はとても良かったのですが、参加者のレベル感が違うということに気が付きました。このレベルの差を短時間のイベントで埋めることが難しかったので、レベルを分けたイベントやもう少し細かくイベントを開催することで、コミュニケーションの場も増えていくかなと思っています。

委員 とても試行錯誤されていることが伝わってきました。

運営ボランティアの投稿頻度と質の統一化について、とても大事だと思います。私もよく参考にさせていただいている子育てのコミュニティカフェがあるのですが、そこもボランティアだからこそ、必ず1か月に1回、仕事の手を止めて、皆で集まって話をするというのを大切にされているということをお聞きしたので、うまく連動するといいと思いました。

報告書に広告テストのことが記載されていましたが、ちよママさんのページの広告に少しお金を出されて効果があったということでしょうか。

助成グループ Instagramで、千代田区内に広告を出しています。そこまで高い金額ではなく、月1,000円～2,000円というレベルです。もう少しプッシュして出会うって思いたければと思っています。口コミがきっかけでちよママを知ってもらい、フォロワーが増加していますが、口コミさえもリーチできない層がちよママにたどり着ける方法を作っていかなければならないと考えています。千代田区在住で子育てや子どもに興味のある方を対象に広告を出すことで、どのくらいフォロワーが増えるのか、費用対効果などの検証を重ね、4,000世帯を目指して全網羅的に広げていけたらと思っています。

- ・情報の質の担保
 - ・活動に対するPR活動
- 以上の7点を実施していけたらと検討をしています。

エンジョーイ 歌ンターレ CHiyODA

(た) 楽しく (ち) 力強く (つ) 繋り
(て) 手を取り (と) とともに千代田で歌おう

【代表者】加藤 茜 【主な活動地域（場所）】番町趣町地域

活動概要

千代田区には今も昔も多くの音楽家が在住しています。
山田耕筈、瀧廉太郎など、日本を代表する音楽家が、千代田区在住ということ、千代田区民はじめ、あまり知られていないように感じています。
千代田区ゆかりの音楽家を知ることにより、千代田区民が千代田区に興味をもち、千代田区のコミュニティに参加し、音楽を楽しめるような活動を行っていきます。

発表概要

「(た) 楽しく (ち) 力強く (つ) 繋り (て) 手を取り (と) とともに千代田で歌おう」をテーマに初めてサークルを立ち上げ、「歌う」「知る」「聴く」の3つの活動を主に行いました。
「歌う」は、千代田区ゆかりの音楽家である山田耕筈の「赤とんぼ」や「この道」など、昔ながらの童謡唱歌を中心に歌ってきました。
「知る」は、まち歩きツアーを開催し、番町地区の音楽家の住居跡などを巡り、その音楽家のことを知るためのレクチャーを行いました。
「聴く」は、千代田区ゆかりの音楽家であり、千代田区歌を作曲した山田耕筈の楽曲を聴くコンサートを開催しました。

「歌う」に関しては、3月29日の合唱コンサートで「歌う」ための練習会を令和5年10月25日～翌3月までの間に9回実施しています。最初は、人を集めるところからのスタートで、広報誌にメンバー募集の記事を掲載しました。第1回は、メンバーが集まる前で千代田区の施設を借りる人数要件を満たすことができなかったため、番町つ俱樂部の代表佐藤さんにご提供いただき、練習会を実施することができました。10月～12月は、千代田区に住んでいる音楽家たちの歌をメンバーの皆さんで歌い、1月からはコンサートで歌唱する曲を練習しました。2月28日には、コンサート本番で実際に指揮をしていただく方と一緒に練習し、コンサート本番を迎えました。

練習会の参加者については、広報誌をご覧になった方が多いのですが、ご年配の方もいたため、体調不良等でのお休みもありましたが、メンバー変わりつつ、毎回5名程度が参加されました。主な練習場所として、九段生涯学習館を利用しています。

「知る」に関しては、2月28日に山田耕筈のレクチャー会ということで、9名の方にご参加いただき、講師の歌い手の方をお呼びして山田耕筈の人生について、1時間20分程度、演奏も交えながらお話をさせていただきました。3月13日の「番町街歩きツアー」では、6名の方にご参加いただき、番町の音楽家の住居跡を中心に、四ツ谷駅から出発して最終的には千代田区歌の碑がある半蔵門までの街歩きを行いました。当日は冊子を作成して参加者の方にお配りしたほか、皆さんでランチも楽しみました。

「聴く」に関しては、山田耕筈合唱コンサートを開催し、練習会に参加された方とプロの合唱団の歌を「聴く」ほか、来場された皆さんと一緒に歌を歌いました。プロの合唱団には、山田耕筈の人生を歌って追いながら、なかなか演奏できないような内容の歌も演奏していただきました。このコンサートへの出演者は20名程となりました。

良かったこととしては、プロの合唱団に千代田区歌を歌ってもらい、録音することができました。なかなかないことで、とても貴重なものができたので、これを練習会の時に流すなど、活用していきたいと考えています。また、コンサートには、95名の方にご来場いただくことができましたので、大変良かったと思っています。



Comment



委員 盛りだくさんの内容で、いろいろと頑張られたということがわかりました。

「歌う」「知る」「聴く」と活動を始めたばかりで、たくさんのことをされていて、かなり大変だったと思うのですが、1年活動されてきた感想でもよいので、3つの柱のどこに重点をおくのか、資金面などについて、教えてください。

助成グループ 正直、寝る時間が無くなりました。

資金面でいうと、1番目に経費がかかっているのは合唱コンサートです。2番目は、練習会でお呼びする講師などの謝礼金になります。実際には、助成金以外にも自分自身で負担しているところもあります。

委員 いろいろな方が集まって合唱する場合、スキルの違いがあるので、講師の方をお呼びして指導されているというイメージなのですが、聞いている方が素晴らしいと思うレベル、もしくは講師の方が合格というレベルになるまでに、どのぐらいの練習日数がかかるのでしょうか。

助成グループ 練習日数等に関しては、人数的にも参加者だけでは演奏のクオリティが担保できないため、お声掛けしたりして、参加人数を増やしたりもしました。また、合唱コンサートでは、プロの方に後ろで歌ってもらいながら一緒に歌うという形にして、聞いている人たちのクオリティを下げることなく、歌っている参加者の方も楽しんでいただくことができました。

委員 こういったコンサートでは、通常、そのような形式で開催するのが多いのでしょうか。

助成グループ 合唱の指導では、プロの方たちが入ってクオリティを上げるというのが一般的です。ただ、今回の特徴としては、たくさんの方にご参加いただくことができたということがあります。今回は限定的なもので、普段はそのようなことができませんので、今回はそういう意味で、クオリティを担保しながら開催できたので、非常に音楽的な質として充実したものをすることができました。

08

アマルフィファーム



農作業を通じたコミュニティ形成

【代表者】松田 憲明 【主な活動地域（場所）】六番町

活動概要

千代田区六番町にあるビルの裏の空き地をファームとして利用し、農作業を通じた地域のコミュニティ形成を目的とした活動を行っています。種まき～育成～収穫という植物のサイクルを通して農作業の大変さを体験し、日々目にしたり口にしたりしている野菜や果物がいかに貴重なものであるかを再認識する等の食育的な観点や、地域の人たちと楽しく触れ合う機会をつくれたらよいと考えています。

発表概要

農作業を通じたコミュニティ形成を目的に、千代田区六番町にあるビルの裏の空き地をファームとして利用して、いろいろな植物の種まきや収穫等のイベントを令和5年11月と令和6年3月に開催しました。そのほか、アマルフィファームがあるビル4階の自分自身が運営しているカフェのお客さんなどにも見学していただきました。

成果としては、売っているものよりは小さいのですが、3月に大根を収穫しました。ちゃんと食べることができて、収穫に参加していただいた4～5名の方と一緒にサラダにして食べました。その際に一緒に収穫したミントもモヒートにして、みんなでいただきました。

また、同じファームでは、昨年の公開審査会の際に神田藍の会さんからいただいた藍の苗を植えています。ちゃんと育てて花が咲き、種も収穫することができました。神田藍の会さんが神田明神に種を奉納する際、その収穫した種も一緒に奉納していただいたことも活動の一つとなりました。藍の苗は枯れてしまったのですが、その後も新しい芽がでてきて、今も元気に藍が育っています。

大根を収穫した際に、新たにブルーベリー苗を植えました。今後それが育っていくのに、2～3年かかるようですが、千代田区六番町産のブルーベリーができればいいなと思っています。



Amarphie Farm
2024.3.2(Sat)11:00-

ちよだ区で
野菜・ハーブ・花
を育てよう！

【活動内容】
昨年植えた野菜等の収穫、春に向けて
新たな作物を植えます。
畑作業後にお食事を予定しております。
お子様～大人までご参加いただけます。

アマルフィファーム概要
・住所：千代田区六番町5-5 飯田ビル内
・定員：10名ほど
・問合せ：03-3238-9415（担当：まこと）
nomatsuda@gmail.com

当事業は公益財団法人まちづくり千代田による
「第23回千代田まちづくりサポート」助成を受けて行っております。

Comment



委員 今までの種まきや収穫のなかで、具体的にどんな方たちと関わりましたか。

応募の際、近所の子どもたちと一緒にというお話があったと思うのですが、子どもたちの参加はあったのでしょうか。

助成グループ もとものきっかけは、近所の子どもたちと一緒にというのがあったのですが、実際には子供の参加はありません。応募はあったのですが、急遽参加できなかったというケースはありました。

ただ、今年の春から、ビルの地下スペースで、番町空手教室というのが始まり、20～30名の子どもたちが出入りするようになりました。今後はその子どもたちとも交流が生まれるかなとは思っています。

委員 実際にイベントに参加されたのは、どんな方たちでしょうか。

助成グループ 働いている方も含めて、主に近所の方たちです。

(09)

すなっくちよだ

サードプレイスのような
誰でも参加できる居場所づくり



【代表者】花岡 火草 【主な活動地域（場所）】千代田区全域

活動概要

千代田区内の飲食店やシェアスペースを借り、1日スナックをオープンします。区内在住者、在勤者に限らず、広くイベントを告知し、千代田区という場所をベースに新たなコミュニティ形成の空間を提供することで、サードプレイスのような、誰でも気軽にアクセスできる居場所づくりを目指します。

発表概要

私たちがこのグループを作ったきっかけは、千代田区が実施している「*ちよだをつなげる女性30人」というプロジェクト（令和4年度）のワークショップ（フィーチャーセッション）のなかで、家でも学校でも職場でもない「もうひとつの居場所」として「すなっく」をコンテンツとした企画検討したことを機に、実際にすなっくイベントを開催しようという女性たちが集まって立ち上げたグループです。

立ち上げたときは、千代田まちづくりサポートのことは関係なく、まずはやってみよう自分たちで企画して「すなっくちよだ」を開店してみましたが、想定よりも参加者が多かったため、「もう少し継続的に開催できたらいいのでは」と考え、今回、はじめて部門に応募しました。

「すなっくちよだ」のメンバーがママになって、ゲストを迎えるスタイルで活動をしていて、1年間で3回開店しました。

はじめに、富士見エリアの東京大神宮の参道入口にある「カラオケ居酒屋 RAKURAKU」で開店しました（開店日：令和5年4月21日／参加人数：スタッフ含め大人19名、子ども3名）。

つぎに、千代田区は、番町麹町、富士見、神保町、神田、岩本町など、場所によって参加される方もそれぞれ変わってくると思っています。次回は、もう少し違うエリアでできないか検討し、昨年度開店した神田エリアでもう1回開店することにしました。シェアキッチン借りているメンバーがいたので、それを活用することにしたのですが、すなっく形式では営業許可等手続きが複雑になるため、ホームパーティーという形で、「すなっくちよだ」を開店しました（開店日：令和5年9月8日／参加人数：スタッフ含め大人約35人、子ども6名）。

その後、春夏秋冬1回ずつ開店したいという計画はあるのですが、次もまたやりたいと言いながら、割と私たちの気まぐれな部分もあり、どうしようか考えていたところ、1回目に開店したカラオケ居酒屋のマスターからもう1回やらないかとお願いがありました。お店に通う常連客の方からも「またやらないの？」と言われるという話がマスターからあったので、じゃあやりましょうという感じで開店を決めました。（開店日：令和6年2月2日／参加人数：スタッフ含め大人約20人、子ども4人）前回と同じことをしてもいいのですが、ちょっとおもしろいことがあったらいいと思い、今回は、1コインでタロット占いができるというのを企画し、その場で簡単な悩み事相談ができたりするイベント的なものを盛り込んでみました。あとは、ママ友や近所にお住まいの方の知り合いのお子さんなどが、たくさん来てくれて、皆でカラオケを楽しみました。まわりにいる大人たちも子どもたちにとっても優しく、「どどん歌ってごらん」と話しかけたり、子どもたちも知らない人前で歌うという普段経験できない体験をすることができました。また、楽しそうに歌っている子どもたちの姿を見てジーンときているお客さんもいて、とても印象的でした。

また開店してくださいというご要望はいただくのですが、会場を貸切にする必要があるの、開店場所をどうするかが課題となっていて、参加費とメンバー個人の持出しで回しているのが現状です。

※「ちよだをつなげる女性30人」とは、千代田区を愛着のある活気あふれるまちにしていくために、区では手の届かない地域の課題の発掘から解決策につながるアイデアを創出するワークショップで、千代田区に関係する組織やセクターの枠を超え、千代田区の未来を創造する対話型・継続型・実践型のプロジェクトです。



Comment



委員 コロナ禍を経て1周回って、こうゆう緩い世界に浸りたいというか、今の若い世代の方も含め、今の人たちが求めている今後のコミュニティ形成の一つのヒントになると思って見ていました。参加したかったのですが、私も人見知り激しく、誘っていただかないと一人では参加できないのですが、是非、このような空間は今後も続けていっていただきたいし、参加もしていきなさいと思います。素晴らしい活動だと思います。

助成グループ 是非、次回はいらしてください。

委員 今後も複数日連続して開店するのではなく、1日開店のコンセプトに変更はないのかということと、グループ名がひらがなで「すなっくちよだ」とされていますが、「すなっく」をひらがな表記にした理由はあるですか。

また、今年度は3回開店ということですが、今後は何回ぐらい開店するか目標があったら教えてください。

助成グループ メンバーもそれぞれ仕事や家庭もあるので、スケジュール合わせが大変で、スタッフが一番来れそうな日で調整をするのですが、1日が限界というところ。グループ名については、最初はカタカナの「スナックちよだ」にしていたのですが、なんとなくみんな「すなちよ」と略していたので、ひらがなの方が今の気分かなというところ。特に理由はありません。開店回数については、特に決めてはいないのですが、季節ごとまたは3～4か月に1回、エリアに偏りがなく開店できるのが理想です。

10 ちょダン



千代田区の合言葉になるような
地域の方々が楽しめる繋がる
オリジナルダンスをつくる！
そのためのリサーチと仲間を増やす。

〔代表者〕野口 幸代 〔主な活動地域（場所）〕千代田区全域

活動概要

在住、在勤、在学の方々が、合言葉になるような「ちょだ」ならではの誰もが楽しめて、仲良く繋がりをつくるオリジナルダンスをつくることを目指して活動しています。

また、そのためのリサーチを目的に、在住、在勤、在学者で交流会を開催しています。この活動を応援・協力するメンバーを増やし、アイデアやマンパワーを集めて、活動を広げていきます。

発表概要

ちょダンは、「ダンスで地域をつなげよう」をテーマに活動しています。

私たちは、交流イベントを3回開催しました。参加者の皆さんは、千代田区内のいろいろなエリアから集まったのですが、思いは一つで、千代田愛が深い方々が集まったという印象でした。区内でいろいろな活動をされている方々が、この交流会に集まり、自分の活動内容のお話などで交流し、最後に手と手を合わせて皆で仲良くなりましょうという内容で交流しました。

さっそく1回目に参加していただき、メンバーになられた、竹内さんをご紹介します。

竹内さんは「バトラン」という活動をされている方で、「ダンス」も防犯や防災に役立つのではないかとアイデアをいただきました。

こういった知恵やアイデアをいただいたり、人と人のご縁が繋がりました。

毎回「メンバーになっていただけますか」とお声掛けすると竹内さんのようにメンバーになってくださる方もあり、メンバーも少しずつ増えました。

1回目と2回目の活動場所は、お子さん連れでも参加できるようにと、ちょラボでご縁をいただいた一番町にあるペリнда保育園で開催しました。残念ながらお子さん連れの参加はありませんでしたが、ダンスは全く初めてで見学だけでも良いですか？という大人の皆様も、保育園という場所の力を借りて、こどもに返った気持ちになって楽しく交流しました。

3回目は、思い切って会場を変えて淡路町のワテラスで開催しました。すると、1回、2回とは違うエリアからもお集まりいただくことができました。

まちサボで助成していただいて良かったのは、1回目と2回目は、チラシを自作したのですが、3回目は、印刷を外注して区の後援を申請し、区内の掲示板に掲示したり、まちサボの団体紹介で広報誌に掲載していただいたところお問い合わせが増えたので、1回目と2回目も掲載できるような活動をしていたら、もっと広がったのではないかと思います。

1年目なので、手探りで本活動の準備段階という感じになりましたが、インクルーシブな「まちづくり」の一環として、この「ちょダン」がきっかけになり人と人をつなげることができていると感じています。地域のみんなで新しい活動する「こと」をつくるのにはハードルがあるかもしれませんが、地域で活躍・活動をされていらっしゃる方々と繋がり、2年目はバージョンアップしていきたいと思っています。



Comment



委員 まちづくりにダンスというのがとても素敵な活動だと思いますし、ほかの助成グループの活動にはない層にリーチできることがとても多いのではと思っています。

今後の展望があれば、教えてください。

助成グループ 今回、他の助成グループのうち、「エンジョーイ歌ンターレ CHIYODA」や「あるまっぶ CHIYODA」や「すなっくちょだ」の活動に参加をしたのですが、他の団体との横のつながりを持って、一緒に活動できたらいいと思っています。

委員 活動テーマとしている千代田のオリジナルダンスについては、これからも継続して創作していくのでしょうか。ひそかに楽しみにしていますので、是非、頑張ってくださいたいです。

助成グループ 千代田区歌のリズミカルなバージョンがあるらしい事と、区内の小学校では校歌と共に区歌を歌っているという情報を得たので、「千代田区歌」に振付をしてもいいのではないかなどの案が出ております。引き続き活動を続けていきたいと思っています。ありがとうございます。

優美堂再生プロジェクト 実行委員会

優美堂を再生しコミュニティ形成拠点として
多様な文化活動を誘発する。

【代表者】中村 政人 【主な活動地域（場所）】優美堂（神田小川町2丁目）

活動概要

絵画の額縁店・ギャラリーで、住居でもあった優美堂を世界のアーティストが滞在制作するアーティストレジデンスプログラム（AIR）を通して、地域コミュニティの国際文化交流が生まれるクリエイティブサロンとして再生します。建物は構造補強をして木造建築を生かした工法で、リノベーションしています。

発表概要

皆さん、優美堂にいらしたことはありますか？

優美堂再生プロジェクト実行委員会では、久保金司さんの絵画展「東京まんまん中／ハレとケ」を令和5年6月22日～令和5年7月23日に行いました。久保さんは80歳からアーティストとしての活動を開始し、神田のまちを水墨画で描いています。今回が初めての個展でしたが、とても好評ですごくいい雰囲気になりました。

続いて、OJUNさんの「絵と緑」を令和5年9月21日～令和6年2月20日に開催しました。OJUNさんは東京藝術大学の先生ですが、授業ではなく、アトリエのなかで作家としてのOJUNさんが作品を描く姿を体験できる場を作り上げることができました。

現在、個展を開催している大内 風さんは、東京藝術大学を去年卒業して初めての個展「心からの言葉」で、神田の地を五感で感じ、お客さんと会話しながら湧き出るイメージを描いています。とても試行錯誤しながら作品を作り上げていて、悩みながら描いた作品は、心から言葉を発したくなるような作品になったと思います。

そのほか、優美堂が理想の実家のような場所であるという事から誕生した「ジッカヨリジッカ」というアート活動グループが、作家一人に焦点をあて、優美堂の窓ガラスに絵を描く、ガラスドローイングワークショップを8回開催しました。令和5年5月17日～20日には、「ジッカヨリジッカ」が自主企画した「五感の開拓」という、岡山のイタリアンシェフとコラボした音楽と味覚、視覚が新たな知覚を喚起させる料理イベントを開催し、4日間で約80名の方に来場していただき、とても良い企画になりました。

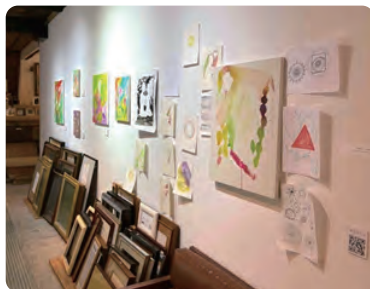
また、正則学園の「花いけ男子部」は、令和5年1月から毎週木曜日、ショーウィンドウへの生け花の展示のほか、優美堂の額と花とのコラボレーションやアート作品とのコラボも披露してくれました。

テレビ放送では、令和5年9月に日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」の中央線沿線の旅のなかで、お茶の水駅周辺として、優美堂が取材を受けました。

現在もカフェ「優美堂」は安定した営業を行っています。

アーティストレジデンスにおいては、令和6年6月に海外アーティストの方が個展をされる予定になっています。

※代表者が仕事の都合で欠席のため、発表者はメンバーの石川さんです。



Comment



委員 とてもたくさんの展覧会等をされていて、コミュニティの形成拠点になっていると思って拝見していました。展覧会を開催するにあたって、地元の方や海外の方、藝大を卒業された方など、様々なアーティストの方がいらっしゃると思うのですが、地域のコミュニティの拠点として、その選定やスケジュールなどをどのように決めているのでしょうか。

助成グループ 代表の中村が運営している3331と連携して決定しています。

委員 大変興味深い展示会をたくさんされているので、行ってみたいと思いました。

発表者の石川さんは普段、どのような活動をされているのですか。

助成グループ 「ジッカヨリジッカ」を立ち上げました。「ジッカヨリジッカ」では、どうしたら神田の歩いている人たちに窓ガラスに絵を描く活動に参加してもらえるかというのをやっています。ちょうど昨日も似顔絵を描いてもらうという活動を行っていました。

「神田珈琲園」 再生プロジェクトチーム

JR 神田駅高架下で創業 60 年、
地域に愛され続ける『神田珈琲園』の再生

【代表者】 八戸 建 【主な活動地域（場所）】 神田珈琲園（鍛冶町 2 丁目）

活動概要

神田珈琲園では、「時間と場所の提供」をしています。展示ギャラリーや地域の交流・活用スペースとして利用していただくほか、まちの情報発信の HUB 的な役割を担うなど、地域コミュニティの場を提供しています。

発表概要

神田珈琲園は JR 神田駅の高架下にあります。概要をご説明しますと、JR の高架の耐震補強にともない、60 年創業してきた神田珈琲園が移転もしくは閉店を JR から迫られましたが、オーナーがこの地での開業にこだわりたいということで、JR との交渉のうえ、建て替えという選択をしました。その再生を普請部門の助成金を受けて、実現したというプロジェクトになります。

たくさんのご支援もいただき、もともとの地元のファンの方も多く、昭和レトロな雰囲気を残してほしいという声や引き続き待っているとお声をいただき、いろいろと紆余曲折ありましたが、2 年間かかって建て替えることができました。

リニューアルオープンにあたってクラウドファンディングを実施したときには、多くの方からご支援をいただきまして、その後、常連のお客さんによる猫のイラストのオリジナルグッズの売上を保護猫活動に寄付したいとのことで、ちよだニャンとなる会さんとコラボするなど、新たな関係も生まれています。また、2 階の展示スペースをギャラリーとして以前から使用していたのですが、今も募集しています。利用料は 50,000 円ですが、特典として、来場した 100 名の方に「珈琲園ブレンド」をお飲みいただくことができるので、お客さまを誘いやすい仕組みとしています。作品販売も行っているため、是非、助成グループの皆さんも応募していただければと思います。

ギャラリー展示以外の活動もしたいと考えていたところ、「JNR—平成・令和の国鉄を旅する—」という JR や旧国鉄時代からの写真展示を記念して、古今亭駒治さんの落語寄席を開催し、15 名定員がすぐに満席になりました。現在は、レトロな感じの写真展を開催していた利用者同士が、知らない間に繋がっていて、「日本の文化を世界に知らせよう」と、それぞれのクリエイターの特徴や強みを生かしたアニメや日本文化の様子を描いた絵画などの展示を企画されています。

そのような活動をしていると、うわさが広がるのか、レトロイズムというブログでは、5 ページぐらいにわたって神田珈琲園の歴史や再建への思いと伝えていただいたりもしています。（レトロイズム～visiting old, learn new～<https://retroism.jp/2023/09/29/cafe-16/>）

また、先週 BS テレ東「飯尾和樹のずん喫茶」という番組に、老舗の喫茶店ということで取り上げていただきました。その直後、朝、お客さんが並んで待っていることがあったとのこと、すごい影響力だなとも思いました。

そのほか、地元の神田外語学院のビジネスキャリア課の授業で、「地域とのつながりはどのようにしたら構築できるか」というテーマの課題に対して、学生グループの一つが自主的に神田珈琲園を調査対象に選定してくれました。神田珈琲園の創業 60 年の歴史や再建の経緯、オーナーやスタッフの思いなどを伝え、神田のまちをよくしていく方策などを一緒に考えたことが縁となって、逆にオーナーの八戸さんが神田外語学院に出向いてまちづくりについて語ることになりました。まさか自分がまちづくりを語ることになるとは思わなかったが、大変良い刺激をいただいたと喜んでいました。

新しくファンになってくださる方、地域で初めて知ったり、もともとから知っていた方などによって、いろいろなコラボができる場所があること、そしてまちづくりサポートを含め、いろいろな繋がりがあることで、やはりこの場所が生きてくるということを実感した一年でした。

是非、皆さんにもご活用いただければと思います。



Comment



委員 活動が成熟しているので、質問ではなく、コメントになるのですが、テレビなど様々な媒体や神田外語学院の学生さんにも知っていただく機会があったり、大変素晴らしいと思いました。学生さんとも、きっかけがないと交流しづらい部分もあると思うので、今後も大学や専門学校などの若者たちとのチャンネルがあったりすると良いと思いました。

助成グループ 学生さんとのエピソードがもう一つありまして、昭和の純喫茶と言えばタバコの煙がモクモクしていたイメージがあるのですが、東京都受動喫煙防止条例で分煙の話がでた際、その雰囲気を残したいと、2 階を喫煙、1 階が禁煙としたところ、やはりタバコの匂いが 2 階から 1 階に降りてくるがありました。私たちは昭和の雰囲気だからと思うのですが、学生さんたちから、「これはやっぱり空気清浄機を設置した方が良い。」というアドバイスをいただいて、2～3 台置くことにしたそうです。そんな風に、時代も踏まえながら、でも若い人たちの意見を聞いて、さらに店が進歩していくのはすごくいい話だなと思いました。

委員 地域にこのようなお店があるだけで、神田祭で利用していただくなど、そういったところで地域とのつながりができて、地域のコミュニティ活動が広がっていくと思いますので、こういう場所は是非残したいと思いました。馴染みの喫茶店ということで、この場所があるだけで地域が活性化するような気がします。活動を期待しています。

第23回 千代田まちづくりサポート大賞発表



サポート大賞は、「神田藍の会」が受賞されました。



「神田で藍（愛）をいっぱい」に2023～Ai Love KandA～」をテーマに神田に縁の深い「藍」の栽培とイベント活動のほか、地域の方との交流やコミュニケーションの場を作ることを目的に活動をしているグループです。

これまでの活動で培った地域の方々からの声掛けに応え、藍の栽培活動以外にも、地元企業での染め物体験会のほか、お祭りやイベントでの種の配布など、さまざまな場所で地域の方々と多様な交流を重ねられています。

今後も藍を起点に地域との絆を深め、神田愛「藍」を深めていきたいです。

これからの活動も応援しています。



審査会委員講評



会長 後藤 智香子

東京都市大学 環境学部
環境創生学科 准教授

<エンジョーイ 歌ンターレ CHIYODA >

本当に千代田区らしい活動だと思いました。千代田区に縁のある音楽家を専門的な見地も含めて発掘され、それを皆さんで楽しみ、尚且つ、まち歩きツアーも実施されるというところが、非常にユニークな活動ですので、次年度以降も、是非、何らかの形で継続していただきたいと思いました。また、大人から子どもまで参加できる活動ですので、地元の小中学校や幼稚園など、さまざまな年代にリーチできる活動だと思いますので、ぜひそうした展開も検討いただければと思います。今後の活動を楽しみにしています。



副会長 三友 奈々

日本大学 理工学部
土木工学科 助教

<番町っこ倶楽部>

最終年度の3年目ということで、毎年活動報告をお聞きすることを楽しみにしておりました。タウンミーティングなど地域の中での活動を行うほか、助成グループの中心的な役割を担ってグループ同士のつながりを作っていただきました。本来の活動を超えていろいろと活動されてきたことは、素晴らしいことだと思います。今はご自身のグループの活動で精一杯かとお見受けしますが、他のグループの皆さんも番町っこ倶楽部の活動のように将来的にはどんどん活動を広げていただけたらと思っています。

<あるまっぷ CHIYODA >

千代田区の場所や食べ物などを紹介した媒体はすでに多数ありますが、今年度は魅力ある人や活動などに焦点を当てたところに感心いたしました。是非、今後も続けていただければと思います。また、無理のないスケジュールでできるだけ長く活動していただくことが重要だと思います。他のグループの皆さんも含めて、負担にならない運営体制・方法を十分に検討いただき、中長期的な視点も持ちながら進めていただければと思います。



委員 田熊 哲也

興産信用金庫 地域支援部
お客様支援課 地域支援担当 課長

<すなっくちよだ>

千代田区という場所での新たなコミュニティの形成について、皆さんが必要とされているということが、今日のお話を通じて感じました。そういう場があり続けることが、地域にとって、皆さんの元気になるというか、もっと言えば究極的なことですが、普段知り合えない人たちが分かち合える場があるということが、生きる希望というか、話せない人たちが話せるということが、非常に団体にとって必要なものであると思って聞いていました。

課題にあった場所の提供等については、私自身として提供場所を提示することができないのですが、今回よく話が出ていた横のつながりや人との繋がりがなどで、会場情報に関する声掛けがあればいいと思っていますので、一回でも多く開催して、地域の皆さんを盛り上げる活動を展開していただけたら、非常に嬉しく思います。

審査会委員講評



委員 保科 彰吾

公益財団法人 まちみらい千代田
理事長



委員 柿内 健介

神田地域代表



委員 千賀 行

千代田区 道路公園課 課長

< tea plant club >

メイドイン千代田の紅茶づくり、茶飲み友達ならぬ茶づくり友達を増やすという活動コンセプトは素晴らしいと思います。

1年目の活動では、茶の木の植栽場所の確保に苦慮されておられましたが、2年目の今年には、千代田区社会福祉協議会のご協力を得て、植栽場所（かがやきプラザ5階テラス）の確保の目途が立った際の加藤代表の嬉しそうな顔が今でも鮮明に思い出されます。

茶の収穫には3年程度かかるとのことですが、天候にも左右され、予定の収穫量が上がらないこともあろうかと思います。また、賛同者を増やすことも一朝一夕にできるものではありません。「継続は力なり」です。地道に、コツコツと、息の長い活動を継続することが、大きな成果につながると思います。期待しています。

< 神田藍の会 >

神田の地域を隅々まで活動していただき、大変感心すると同時に、デジタルの時代においても、アナログ的なコミュニティ活動という方法が、とても大きな成果に繋がっていくと感じています。植物を育てることをツールにコミュニティを形成していくことは、それこそ土いじりをしているということと言うならば、土着間満載の活動だと思っています。

せっかく植物を活用したコミュニティ活性化ということなので、今後は町会や各種企業だけではなく、質疑応答の際にも申しましたとおり、子どもたちも巻き込むような活動に繋げて行っていただけたらと思います。

< 一般社団法人ちよママ >

デジタルを活用したコミュニティ活性化ということで、フォロワー数が増えているということは、必ずニーズがあるということだと考えています。そのニーズをどうやって掴んでいくかということは、技術的なところや方法論になってくると思いますが、間違いなく子育て中のお母さん方は、情報が欲しいということだけでなく、情報提供することで、お互いに助け合って子どもたちを育てていこうという思いは皆さん同じだと思います。本来であれば、千代田区や東京都が提供しなければならないようなサービスまで、一般社団法人ちよママさんがされているということで、広く皆さんに周知できるよう、私も含めて、皆さんもデジタルを活用して拡散していただけたらいいと思っています。

< ちよダン >

ダンスを通して繋がるということで、ダンスが得意な人と不得手な人とに二極化するテーマに対し、どのようにアプローチしていくのか、少し疑問に思っていました。しかし、交流を軸足に3回開催された点は、逆にいいアプローチの仕方でありスタートだったかと思っています。

そのなかで確実に仲間を増やされ、そこからいよいよ「ちよダンス」をどう作っていくのか、まだ途上でもありますので、是非、目的に向かって今後も活動していただければと思います。



委員 おの 小野 寺 健志
麹町地域代表

<まちづくり・地域政策研究会>

今回、麹町の名産品を作るという時間のかかりそうなテーマでしたので、一年目としては、皆さんの意見を聴く場ができたということが、一つの成果だと思います。また、皆さんの強みである、「聴く力」「記録を取る能力」についても、再認識できて良かったと思います。ご提案にはなりますが、たくさんの助成グループが横のつながりを持って活動されていますので、同じように横のつながりを持たれて、他の助成グループの記録を取るなどの活動にも転じてみたら、どうなのかなとも思いました。

今後の展開として、醤油麹の商品化や販売に関しては、何をもちて麹町と醤油麹がどのように繋がるのか、そのことについて地元の皆さんがどのような気持ちでいらっしゃるのか、その辺についても、地元の方たちとの絆を深めていただき、商品化や販売等をしていただければと思います。千代田のさくらまつりでは、千代田区の名産品が商品化されて販売されていますが、将来的に、そこに醤油麹が並ぶようなことがあればいいと思っています。

<アマルフィファーム>

自然を相手にする活動なので、おひとりでは大変だと思いました。千代田区六番町というと住宅地としては日本一価格が高いところなので、ファームがあること自体が貴重で、そこで収穫した大根が一本いくらかになるのかと思い、またそれを食べられるのは贅沢な活動だと思いました。他の助成グループもそうですが、なるべくご自身と同じ考えを持つ方たちをメンバーに迎え、その方たちとうまくローテーションを組んで、畑を維持され、収穫した野菜などを子どもたちと一緒に食べたりできるといいと思います。

あえて人数を多くする必要はないと思っています。畑も限られていますし、あえて大きく広げて宣伝する必要もありませんので、今後そういう形で、活動を続けていただければと思います。

私も地域のコミュニティ活動をしています。行政の方でいろいろな地域で声掛けをして、地域のコミュニティ活動をされているグループの皆さんに繋げるなど、自分たちだけではできないことでも、皆さんのような外部の力を得られれば、新しい視点で活動ができたり、人材も発掘できるかもしれないと思っていますので、その辺りは行政にも期待したいです。

全体講評



会長 ごとう 後藤 智香子
東京都市大学 環境学部
環境創生学科 准教授

まちづくり活動に正解はなく、地域によってやり方も異なります。今年の活動は、それぞれの助成グループが、千代田や地域の文化や魅力などの新しい資源を発掘したり、創造しているところが、とても素晴らしいと思いました。また、新しく情報発信するような活動も人々の新しいつながりを生む意味で素晴らしいと思いました。

まちづくりは、地域の地域固有の資源を発掘して、それを活かしたり、課題を解決したりというのが大切ですので、そういう意味でも、大変素晴らしい活動が展開されていると思いました。「まちづくり」というと、どうしても正面から課題解決をしようとしがちなのですが、そうではなく、自由な発想で、楽しみながら素敵な資源や魅力を伸ばしている活動が非常に多かったのが印象的でした。ダンスや歌、植物や麹、古い建物や素敵な人を繋げるなど、そういったところがとても素晴らしいと思いました。

なかなか自分たちの思い通りに進まないこともあったかと思うのですが、いろいろ試行錯誤されている様子もすごく伝わってきましたので、そういう風にいろいろと回り道をしながらでも、一步一步これからも進んでいただけることを祈念しています。

我々も助成グループの皆さんの活動から学ぶこともあったと思っていますので、改めて御礼申し上げます。引き続き、お互い頑張っていけたらと思います。お疲れさまでした。





Map 活動マップ



01

番町っこ倶楽部
(番町麴町地域)

07

エンジョーイ 歌ンターレ CHIYODA
(番町麴町地域)



08

アマルフィファーム
(六番町)



04

まちづくり・地域政策研究会
(麴町地域)



03

あるまっぷCHIYODA
(千代田区全域)



06

一般社団法人ちよママ
(千代田区全域)





11 優美堂再生プロジェクト実行委員会
(優美堂「神田小川町2丁目」)

02

神田藍の会
(神田地域)



09

すなっくちよだ
(千代田区全域)



12

「神田珈琲園」
再生プロジェクト
(神田珈琲園「鍛冶町2丁目」)



05

tea plant club
(千代田区全域)



10

ちよダン
(千代田区全域)



賛助会員一覧 (2024年6月現在)

法人会員

建設業	株式会社楠山設計 株式会社久保工 株式会社竹中工務店 (一社)東京都建築士事務所協会 千代田支部 株式会社ナカノフドー建設 日産緑化株式会社 株式会社日昇緑化研究所	不動産業	株式会社 AZWAY エヌティティ都市開発株式会社 東京建物株式会社 プラットフォームサービス株式会社 三菱地所株式会社 安田不動産株式会社
製造業	株式会社イガラシ 株式会社イサミヤ 瀬味証券印刷株式会社 東京スクリーン株式会社 株式会社日精ピーアール 日本たばこ産業株式会社 東京支社 千代田担当 ノーラエンジニアリング株式会社 ハネクトーン早川株式会社 株式会社ムレコミュニケーションズ 有限会社メカノトランスフォーマ ヤマノ印刷株式会社 LightBank 株式会社	サービス業	株式会社アール免震 株式会社 i-tec24 株式会社弘周舎 株式会社翔設計
卸売・小売業	鈴木治作株式会社 鈴新株式会社 株式会社トキワ 株式会社ユニフォームネット	その他	石塚株式会社 株式会社グリーンエコエナジー・アセットマネジメント 株式会社コンベンションリンケージ ソホビービー株式会社 株式会社 TALO 都市企画 株式会社 TMMC 一般社団法人 千代田区観光協会 東洋美術印刷株式会社 NPO 都市住宅とまちづくり研究会 日本セイフティー株式会社 株式会社バイオレンジャーズ ビヨンドネクストアカウンティング株式会社 株式会社フィレール 株式会社 mitsuki 株式会社メイクワン 株式会社リブリッジ
情報通信業	コンプライアンス・データラボ株式会社 株式会社メディアリンク		
金融業	株式会社きらぼし銀行 神田中央支店 興産信用金庫 西武信用金庫 神田支店 みずほ信託銀行株式会社		
保険業	株式会社 FEA ぜんち共済株式会社		

個人会員

池 俊郎 加藤 武夫 小林 誠 佐藤 直樹
瀬川 昌輝 立山 光昭 堀部 剛正 ほか 6 名

法人：57 個人：13 計：70

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。

千代田まちづくりサポート通信 No.42 発行 2024年7月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ（まちづくりサポート事務局）
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ
特設サイト



この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。